

## 特別招待選手

[男子特別招待]

川内 優輝 KAWAUCHI Yuki

あいおいニッセイ同和損害保険 1987年3月5日生 (36歳)



男子マラソン日本代表として世界陸上に4度(2011年・大邱、2013年・モスクワ、2017年・ロンドン、2019年・ドーハ)出場。ワールドマラソンメジャーズの一つである2018ボストンマラソンにて、日本人として31年ぶりに優勝する等、輝かしい実績を持つ。2020防府読売マラソンでは前人未到のフルマラソン 2 時間 20 分以内記録 (Fサブ 20J) 100 回を達成。2021びわ湖毎日マラソンでは2時間07分27秒で自己ベストを8年ぶりに更新。2022全日本実業団ハーフマラソンでは、1時間02分13秒で自己ベストを10年ぶりに更新するなど、年を重ねても、なお進化を続ける。今回、通算10回目の節目の出場となる杜の都での走りに期待。

## 自己最高記録

ハーフマラソン：1時間02分13秒 (2022全日本実業団ハーフマラソン)  
マラソン：2時間07分27秒 (2021びわ湖毎日マラソン)

## 主な戦績

2023大阪マラソン/12位/2時間07分35秒  
2021 防府読売マラソン/3位/2時間10分11秒  
2021びわ湖毎日マラソン/10位/2時間07分27秒  
2018ボストンマラソン/1位/2時間15分58秒

1

[男子特別招待]

神野 大地 KAMINO Daichi

セルソース 1993年9月13日生 (29歳)



青山学院大学3年生時の箱根駅伝往路5区で、区間新記録を樹立し“3代目の神”として大学の総合優勝に大きく貢献。大学卒業後は実業団のユニコムリタに進んだのち2018年5月にプロ転向。自身初の日本代表として出場した2019年アジアマラソン選手権では、ゴール手前まで激しいデットヒートを繰り広げる中、フィニッシュ手前で逆転し、2時間12分18秒のタイムでマラソン初優勝を果たすとともに、見事アジアチャンピオンに輝いた。2021防府読売マラソンでは、2時間09分34秒の好タイムで日本人トップとなり、2024パリ五輪マラソン代表選考会(MGC)の出場権を獲得。2023年3月に行われたアジアクロスカントリー選手権では、シニア男子10kmの部で銀メダルを獲得するなど好調を維持。今回3度目となる杜の都で、世界につながる走りに期待。

## 自己最高記録

5000m:13分56秒05(2018日本体育大学長距離記録会)  
10000m:28分17秒54(2016ホクレンDC網走)  
ハーフマラソン:1時間01分04秒(2017香川丸亀国際ハーフマラソン)  
マラソン:2時間09分34秒(2021防府読売マラソン)

## 主な戦績

2023アジアクロスカントリー選手権(シニア男子10km)/2位/33分52秒  
2021防府読売マラソン/2位/2時間09分34秒  
2019アジアマラソン選手権/1位/2時間12分18秒

2

[女子特別招待]

一山 麻緒 ICHIYAMA Mao

資生堂 1997年5月29日生 (26歳)



鹿児島県出身。出水中央高等学校卒業後に名門実業団チームに入団。入社1年目に出走した2016全日本実業団対抗女子駅伝の1区(7km)で21分50秒の区間新記録を樹立し、頭角を現す。初マラソンとなった2019東京マラソンで2時間24分33秒の好タイムで7位入賞。翌年の2020名古屋ウィメンズマラソンにて、2時間20分29秒の日本歴代5位(女子単独レース/アジア・日本最高)の好タイムでマラソン初優勝を果たし、見事に2020東京五輪への切符を手中に収める。新型コロナの影響で2021年に開催された東京五輪は、猛暑の中でのレースであったが、最後まで粘り強い走りを見せ、女子マラソンで日本人として17年ぶりとなる8位入賞を果たす。2021年12月に男子マラソンの日本記録保持者の鈴木健吾選手と結婚。夫婦揃っての2024パリ五輪への出場を目指す。今回初出場となる杜の都で、世界につながる走りに期待。

## 自己最高記録

5000m:15分06秒66 (2020ホクレンDC千歳)  
10000m:31分11秒56 (2021日本陸上競技選手権大会)  
ハーフマラソン:1時間08分28秒 (2021札幌チャレンジャーハーフマラソン)  
マラソン:2時間20分29秒 (2020名古屋ウィメンズマラソン) \*女子単独レース:アジア・日本最高

## 主な戦績

2022東京マラソン/6位(日本人1位)/2時間21分02秒  
\*鈴木健吾選手(2:05:28)+一山麻緒選手(2:21:02)は合計記録でギネス記録認定  
2021東京オリンピック女子マラソン/8位/2時間30分13秒  
2021大阪国際女子マラソン/1位/2時間21分11秒  
2020名古屋ウィメンズマラソン/1位/2時間20分29秒

201

[女子特別招待]

森田 香織 MORITA Kaori

パナソニック 1995年9月19日生 (27歳)



神奈川県出身。荏田高時代は、都道府県対抗女子駅伝などで活躍。現所属では、2017年、2018年の全日本実業団対抗女子駅伝で2年連続1区(7km)区間賞を獲得し、チームのエースとして、連覇に貢献。2018香川丸亀国際ハーフマラソンでは、1時間10分10秒の好タイムで2位(日本人1位)となり、同年にスペイン・パレンシアで開催された世界ハーフマラソン選手権の日本代表となる。初マラソンとなった2022東京マラソンでは2時間27分38秒の好タイムで総合10位、日本人3位となり2024パリ五輪マラソン代表選考会(MGC)の出場権を獲得。2度目のマラソン出場となった2023東京マラソンでは、2時間26分31秒で自己記録を更新し9位(日本人3位)に入るなど好調を維持。今回2度目となる杜の都で、世界につながる走りに期待。

## 自己最高記録

5000m:15分21秒31 (2016日本体育大学長距離記録会)  
10000m:31分57秒95 (2018日本実業団陸上競技連合女子長距離記録会)  
ハーフマラソン:1時間10分10秒 (2018香川丸亀国際ハーフマラソン)  
マラソン:2時間26分31秒 (2023東京マラソン)

## 主な戦績

2023東京マラソン/9位(日本人3位)/2時間26分31秒  
2022東京マラソン/10位(日本人3位)/2時間27分38秒  
2021全日本実業団ハーフマラソン/8位/1時間10分28秒

202

[車いす特別招待]

樋口 政幸 HIGUCHI Masayuki

PUMA JAPAN 1979年1月15日 (44歳)



新潟県十日町市出身。24歳の時にバイク事故で脊髄を損傷し、車いす生活となった。その翌年、リハビリ施設に入所している時に、先輩に誘われたことがきっかけで車いすマラソンと出会い、陸上競技を始めた。パラリンピックには2012年のロンドン大会より3大会連続で出場しており、2016年のリオデジャネイロパラリンピックでは5000mで4位入賞、1500mでは日本人初の決勝進出を果たし8位入賞。2021年の東京パラリンピックでも5000mで8位入賞している。仙台国際ハーフマラソンでは2010年、2013年、2014年、2015年、2017年、2018年の計6回優勝しており、今回も活躍が大いに期待される。

## 自己最高記録

マラソン:1時間22分02秒 (2011オンシンゲンマラソン)

## 主な戦績

2021東京パラリンピック(5000m)/8位/10分31秒28  
2019仙台国際ハーフマラソン/2位/47分39秒  
2018仙台国際ハーフマラソン/1位/45分51秒  
2016リオデジャネイロパラリンピック(5000m)/4位/11分02秒54 (1500m)/8位/3分02秒05

401

[車いす特別招待]

喜納 翼 KINA Tsubasa

琉球スポーツサポート 1990年5月18日 (33歳)



沖縄県うるま市出身。学生時代はバスケットボール選手として日タトレニングに明け暮れており、中学・高校生のときには沖縄県代表選手に選出された経験がある。大学の時に、トレーニング中の事故が原因で車いす生活に。スポーツからはしばらく離れていたが、大学卒業後、風を切って走る疾走感にひかれて車いす陸上を始める。車いすマラソンで有利な長い腕やハードな練習も音を上げずにやり切れる根気強さを武器に、2019年の大分国際車いすマラソンでは日本記録を樹立。2021年の東京パラリンピックにも出場し、今後も大いに活躍が期待される選手である。

## 自己最高記録

マラソン:1時間35分50秒 (2019大分国際車いすマラソン)

## 主な戦績

2022東京マラソン/1位/1時間40分21秒  
2021東京パラリンピック女子マラソン/7位/1時間42分33秒  
2020東京マラソン/1位/1時間40分00秒 \*大会新記録  
2019大分国際車いすマラソン/2位/1時間35分50秒 \*日本新記録

403